HANACO
はなこ
HANA COMMUNICATION PAPER
http://www.fukuhana.jp/

2015 10・20 No.30

［特集］
新規仲卸店舗のご紹介
突撃取材！㈲AFGへ

◎ PICK UP FLOWER SHOP　あなたの街の花屋さん
◎ 若者育成事業報告　全体研修会を開催
◎ 9月9日は重陽の節句!!菊のＰＲイベント開催
◎ オンシジウムフェア、三都市にて同時開催!!
◎ 日持ち性向上対策品質管理認証取得者のご紹介
◎ 生産流通部からのお知らせ　きつつき君 SQ-200
◎ 部会活動報告～キク部会～

5cmほどの卵型の果実に小さな突起がひとつ、ふたつ。ブラジル原産といわれるツノナスは、そのキツネのような愛らしい外見から「フォックスフェイス」と呼ばれて親しまれています。

夏に開花期を迎え、結実したあとは実が緑色から鮮やかな黄金色、オレンジ色へと変化。キツネたちの衣替えが季節の移ろいを教えてくれます。

中国では縁起のいい「黄色」が好まれ、正月飾りによく使われるとのこと。最近ではハロウィンパーティーなど秋のイベントにも活躍の場を広げています。

PICK UP FLOWER SHOP　vol.30

居酒屋や理容室などが集まるKタウン内にある

当店は筑豊中間駅から歩いて5分の場所。昭和45年の開業時はスーパーの一角にあり、仏花や自宅用の花を扱っていました。平成8年に先代から引き継ぎ、現在はギフトが中心です。30年以上前から続けている生け花で培った知識と経験を、接客やフラワーアレンジに役立てています。

仕入れは、花の日持ちのよさを重視し、季節や品種に応じて特定の生産者から購入しています。当店のように多少値段が高くなっても品質を重視する一方で、手ごろな花を求めている店もあり、需要はさまざま。必ずしも一級品がよいというわけではありません。生産者の方には、世の中の流通や需要に沿った花づくりをお願いしたいです。

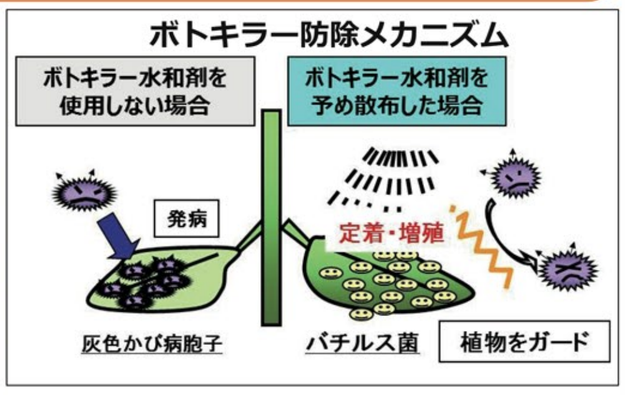
北九州は、生産者、花市場、小売店がうまく連携できていると感じています。現在、団体としては初の花の「日持ち保証販売」に申請していますが、これは三者の協力があってこそ成り立つもの。消費者に花を長く楽しんでいただけるよう、三位一体となって取り組んでいきましょう。

店内の一角にある雑貨コーナー。和風の小物が並ぶ

ボックスを使ったフラワーアレンジは持ち運びに便利

FLOWER SHOP
夢ギャラリー 花のれん
（セリ番号 北九州 336）
DATA
所在地:中間市東中間1-3-8
TEL:093-244-1938
FAX:093-244-1938
営業時間:10:00～19:00
休み:第1・2・4火曜、第3日曜、盆、正月

ボトキラー自動投入機
数量限定！
きつつき君SQ-200 特別価格キャンペーン



・水を用いず病害予防！灰色かび病防除に!
・１回の充填で数カ月の連続運転が可能！
・暖房機ファンと連動して自動投入されるため防除がもっとラクになる！

通常価格 63,720円（税込）
キャンペーン価格 56,000円（税込）

※予約数量に達し次第締め切りとさせていただきます。　取付工事費１台5,400円（別途）

出光アグリ株式会社
お求め・お問い合わせ　福岡県花卉農業協同組合　購買課（直通）　電話:(092)621-6411　FAX:(092)612-0316

部会活動報告 ～キク部会～

キク部会は、8月21日（金）に八女地区にて現地研修会を行い、ＪＡふくおか八女の田中亮輔氏と中村吉寿氏のご案内のもと、スプレーギク生産者1件と輪ギク生産者2件を視察しました。

最初に田中氏より、ＪＡふくおか八女のプリンセスマム部会の概要について説明がありました。田中氏によると、プリンセスマム部会には現在43名が所属し、そのうち11名が専業でキクの栽培をしているとのことです。今回圃場を視察させていただいた松本真一氏は、その11名の中のおひとり。松本氏の圃場では、すべてを同じ電球にするのではなく、違う電球を用いて「セイ・パレット」と「セイ・マヨール」を電照栽培されていました。

続いて、ＪＡふくおか八女の電照菊部会員の大月祥行氏と丸林繁美氏の圃場を視察させていただきました。電照菊部会は、年間で２００本入りの箱25万ケースを出荷しています。そのため、生産圃場の施設化を進めているとのことでした。大月氏は「精の一世」を生産されており、キクの葉がしっかりしていたのが印象的でした。丸林氏は、ご夫婦と息子さん、パートさん1名の計4名で、冬に「神馬」、夏に「優花」などの輪ギクを栽培されており、その栽培面積は１，７５０坪になります。輪ギクのほかに、お米の生産もしているそうです。丸林氏のビニールハウスは、通路を広くとっているためそのまま作業用機械が入ることができ、作業効率が非常によさそうでした。

今回の視察には、女性3名の参加がありました。今後も部会活動へ積極的に参加いただき、女性ならではの視点で、他の圃場から生産のヒントを見つけていただきたいと思います。

圃場で説明を受ける参加者たち

［はなこ］10月号 2015年10月20日発行
通巻118号
●発行・編集
福岡県花卉農業協同組合
〒812-0064
福岡市東区松田1丁目3番20号
TEL:092-621-6767
FAX:092-611-0139
Email:info-fukuhana@ja.fukuhana.or.jp
http://www.fukuhana.jp
●企画・印刷（株）プリテックフクオカ
編集・（株）クロス編集事務所
デザイン・シゲ デザイン
HANACO はなこ

特集
新規仲卸店舗のご紹介

突撃取材！新規仲卸店舗㈲AFGへ

2015年4月17日、福岡花市場の場内仲卸店舗として「㈲AFG」が新たに出店しました。オープンして4カ月が経ち、認知度が上がってきたと同時に、固定客もつきはじめたところ。今回は福岡花市場の船越孝典課長同行のもと、少数精鋭で運営する店舗を訪ね、出店にいたるまでの経緯や今後の展望などについて話をうかがいました。

店内の様子

有限会社AFG　城代　健次さん
吉川　伸課長
福岡花市場　船越　孝典課長

―「㈲AFG」は、山口県下関市に本店があるそうですね。

吉川　はい。もともと山口県下関市で小さな花屋からスタートしました。本店は「フラワーマーケット花一番」の屋号で、鉢物・切花の小売販売と卸販売をしています。社長がとてもパワフルで、最近山口県内に3店舗目がオープンしたところです。

―福岡花市場への出店のきっかけは何だったのでしょうか。

吉川　福岡花市場が場内卸売店舗の公募をしていると知り、申し込んだ結果、出店できることになりました。今年の4月17日から営業しています。本店は12人ほどのスタッフで切り盛りしていましたが、その中から私たち2名が福岡花市場の場内店舗を任されました。今は、本店と当店を行き来しながら、仕事に励んでいます。

城代　新規場内店舗の公募には、全国から数社の申し込みがありました。その中から審査を経て選ばれたのが、「㈲AFG」です。現在、吉川さんと城代さん、がんばり屋みっちゃんほかパート3名の計6名で営業しています。一見強面のお二人ですが、気さくで明るく、元気にあふれています。お二人のキャラクターがおもしろく、店頭で足を止めるお客さんが増えてきたように思います。

―オープンしてしばらく経ちましたが、出店した感想はいかがですか。

吉川　出店した当初は、とにかく店をやり繰りすることに必死でした。船越課長にアドバイスをいただいたり、ほかの場内店舗のやり方を見て勉強したりしました。4カ月経って、ようやく慣れてきたところです。一方で、いろいろなお客さんとのコミュニケーションはとても楽しいです。顔もだいぶん覚えていただけているのではないかと思います。

―これまで携わってきた小売販売とは勝手が違うことも多いのではないでしょうか。

吉川　これまでと違うことといえば、一つは営業時間です。5本や10本単位の少数ロット販売をしているので、毎日深夜1時ころから小分け作業を開始します。その際にお客さんが来た場合は、もちろん対応します。もう一つ大きく変わったのは、売る対象が一般の方から小売店になった点ですね。目が肥えた方々が買いに来られるので、以前に増して緊張感があります。

―お店にはどのような商品が並んでいますか。また、仕入れの際に気をつけていることはありますか。

吉川　「お客さんに喜んでいただける充実した品ぞろえ」がモットーです。鉢物、切花ともにできるだけ多くの種類、なおかつ質の良いものをそろえるようにしています。

城代　当店は少数ロット販売をウリにしています。これは、お客さんが買いやすい商品を提供したいという考えからです。「必要な量だけ欲しい」「たくさんの種類が欲しい」という方は多いので、需要のある商品を提供していくことが大切だと思います。

―セリにも参加するのですか。

吉川　参加します。ただ、8割から9割くらいは事前に仕入れているので、セリが始まる前には店頭に商品がほぼ並んでいる状態です。セリでは、足りない分を補うといった感じですね。

船越　分荷の手間がかかるため、少数ロット販売をしているところは多くはありません。それでも、小規模店舗や個人宅で営業している店などでは、注文を受けてから商品を仕入れることも多く、ロスが出なくてすむ少数ロット販売が求められるのは、うなずけます。花市場の買参権をもたない方々はもちろん、セリをメインにしている花商にとっても、仕入れる商品の選択肢が増えるメリットがあると思います。

―「㈲AFG」ならではのアピールポイントを教えてください。

城代　少数ロット販売のほかには、お客さんが気軽に入れるような店づくりを心がけています。具体的には通路を広くとって花を見やすくしたり、ライトを明るくして入りやすい雰囲気にしたりしています。店内には花置き台があるので、商品を置いて、ほかの店を回ることもできますよ。船越課長のアイデアで、店内にディスプレーコーナーをつくりました。私たちが自信をもって薦める商品を置いているので、注目してほしいです。

吉川　DVDの映像や音楽を流しているのも、当店だけかもしれません。立ち止まってくれるお客さんが意外と多いんですよ。また、買い物にカード決済ができることも喜ばれています。

―組合員のみなさまや花市場への要望がありましたら、どうぞ。

吉川　当店の営業時間と組合員のみなさんの出荷時間の関係上、関わることが少ないのですが、たまに自分のつくった花がどのように売られているのかを見に来られる組合員の方がいます。そのときには、今求められている花や私たちが売りたい花についてお話することもあります。組合員のみなさんには、自分がつくった花を積極的に売り込んでいただきたいと思います。いつでもウェルカムです！

―今後の展望をお聞かせください。

城代　花の種類を増やして、よりいっそう納得できる良い商品をお客さんに提供できるようがんばりたいと思います。

吉川　今後は、小売店への営業活動もやってみたいです。「どういう店構えなのか」「どういう商品を主力にしているのか」などがわかれば、こちらから新しい提案をすることもできると思います。

―これから彼岸の時期に向けて、忙しくなりますね。

吉川　そうですね。今年が1年目ですから、初めてのことばかりで予測がつきませんが、できる限り対応したいと思います。

―やる気みなぎる「㈲AFG」のみなさんの今後に期待しています！ありがとうございました。

花置き台に向かう吉川さん

注目のディスプレーコーナー

若者育成事業報告
全体研修会を開催しました。

7月31日（金）に若者育成事業全体研修会を開催しました。福岡市博多区にあるホテルセントラーザ博多で行われた今回の研修会には、若者育成事業会員14名のほか、福岡県の専門技術指導員、福岡県各地区の普及センターの農業改良普及委員など33名の参加がありました。

講師は、宮崎県佐土原町より西岡征志郎氏をお招きしました。西岡氏は、２００２年に家業を継いで就農、２０１０年に株式会社synergy farmを設立し、現在は同社の代表取締役に就かれています。栽培方法にこだわった「つる下げ栽培」でキュウリを育て、契約を結んだ関東のイオンやコストコへの出荷や、インターネットなどでの販売をされています。

今回の研修会では、「変化が求められる農業経営～栽くる～」という題目でご講演いただきました。稼ぐ農業にするためにはどのような行動をとればよいのか。経営ノウハウや中小企業診断士のスキル、農業分野へのＩＴの導入について徹底的に勉強したことや、中途半端な多品目栽培をやめてキュウリのつる下げ栽培に集中したことなど、自身の体験を交えてのお話は非常に興味深い内容でした。また、synergy farm社が開発した「栽くる」という農業版の経営分析アプリについても紹介いただき、アプリを使って自分と他者を比較することで自分の経営がどの位置にあるかを知り、意識改革に役立ててほしいとおっしゃられていました。

参加者の方々からは、「農家の方の話なので非常に聞きやすかった。同じ経営者として考え方が参考になった」や「自分の意識を見つめ直す機会になった」という感想をいただきました。

今後も、アンケートの回答などを参考に研修会を計画し、参加の呼びかけを行ってまいります。ぜひ、ご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

全体研修会の様子

9月9日は重陽の節句!! 菊のPRイベント開催

9月9日の重陽の節句は別名を「菊の節句」ともいい、日本では昔からこの日は菊の花を飾り、菊花酒や菊湯・被せ綿（きせわた）など菊にちなんだ行事を楽しんできました。

そこで、花あふれるふくおか推進協議会は、ＪＡふくおか八女のご協力のもと、8月29日（土）に、ＪＲ博多駅前広場にて重陽の節句にあわせた菊のＰＲイベントを開催。イベント当日は、ＪＡふくおか八女の「ジャフィーくん」をはじめとするゆるキャラ4人や菊の3人娘が応援に駆け付けました。

まず人々の目をひいたのは、菊のアレンジメントとともに飾り付けられたひな人形の展示でした。これは「後の嫁」と呼ばれる風習にちなんだもので、江戸時代には桃の節句に飾ったひな人形を9月9日に再び出して、菊の花とともに飾り、健康と長寿を祈っていたそうです。

この展示の前にて行われたトークショーには、菊の生産者の方が登場し、重陽の節句に菊をどのように楽しむか、普段菊をどのように使ったらよいかなどをイベントに参加された消費者の方々に紹介しました。

トークショーのあとには、イベントの目玉である菊の花束の配布を行いました。前日に、ＮＨＫ福岡放送の「はっけんＴＶ」などでイベント紹介をしていただいたおかげで、当日はあいにくの雨模様だったにもかかわらず、５００束用意した花束が1時間足らずでなくなるほどの盛況ぶりでした。花束を受け取った方からは「きれいねぇ」という感嘆の声が聞かれました。花束には、菊を長持ちさせるためのお手入れ方法を書いた説明書きが添えられていたので、菊の美しさをより長く楽しんでいただけたのではと思います。

このＰＲイベントの様子はＮＨＫ福岡放送にて放送され、当日参加されなかった消費者の方々にも菊の魅力をＰＲすることができました。

このようなイベントを通して菊のＰＲをしていくことで、一般に仏花としてのイメージの強い菊が、もっと身近なものとして多くの人に楽しんでいただけるようになってほしいと思います。

花束を配る「菊の三人娘」

応援にかけつけたゆるキャラ達

オンシジウムフェア、三都市にて同時開催!!

ＪＡふくおか八女は、洋ランの切花の国内生産出荷量が日本一を誇ります。しかし、近年は、外国から安価な商品が多く入るようになりました。そこで、輸入品に対抗すべく、オンシジウムの国内大手産地である福岡県・静岡県・沖縄県（ＪＡふくおか八女・ＪＡしみず・ＪＡおきなわ）が合同で、販売促進のためのイベントを東京・大阪・福岡の三都市にて開催しました。

『幸福（しあわせ）を運ぶ黄色い花～オンシジウムフェア～』と題したこのイベントは、福岡県ではＪＡふくおか八女が主催となり、9月25日（金）に福岡市天神にて開催されました。会場となった青山フラワーマーケットの店舗前では、ＪＡふくおか八女洋ラン部会女性部の方々が中心となり、八女で生産されたオンシジウムの2本花束を配布し、その魅力を道行く人々にアピールしました。

花束の配布の様子

日持ち性向上対策品質管理認証取得者のご紹介

日持ち性向上対策品質管理認証は、「花きの日持ち性向上対策に取り組む方々に認証を授与し、花き業界全体の日持ち性向上に対する意識を高め、一般消費者の方へ安心・安定した花きの品質をアピールし、消費拡大につなげる」ための取組です。花きに携わる個人や団体を対象とし、生産部門、流通部門（市場・仲卸・加工・輸送）、小売部門ごとに認証されます。

現在全国で６００名程の方々が認証を取得されています。福岡県内では、左記の方々が認証を取得されましたのでお知らせします。（敬称略）

Relay Freshness by FARM
生産部門

団体
ＪＡ糸島
糸島クルクマ共撰
糸島スプレーマム共撰
糸島バラ共撰
ＪＡ直鞍
若宮花倶楽部
ＪＡにじ花部会
ＪＡにじカーネ共撰部会
ＪＡにじ球根部会
ＪＡにじ草花部会
ＪＡにじバラ部会
ＪＡふくおか八女
電照菊部会
洋らん部会

組合員
大島　猛彦（イ―３６４）
末継　聡（ウ―０６６）
小山　修一（ウ―０６９）
久家　功（ウ―０７２）
百冨　竜（ウ―０７４）

個人
川野　暁司
佐野　孝之（有）グローテック

Relay Freshness by MARKET
流通部門
（株）菊匠（加工）
三和陸運（株）（輸送）
福岡花市場（市場）

平成27年9月末現在

日持ち性向上対策品質管理認証の取得に関するお問い合わせは、福岡県花卉農業協同組合　市場部　藤川　迄
電話（代表）：０９２－６２１－６７６７